

第一話「ホワイト・ガーデン」

第二話「アライブ・ア・ライフ」

第三話「スプリング・ハズ・カム」

簡単な流れ

第一話

世界到着→レイム vs ヨウム①(Lose)→ヨウキ→レイム vs ヨウ

ム②(Win)→白玉

楼(ユウコ)→世界異変

第二話

紫→サナエ vs 藍→レイム vs 紫→ヨウム vs ヨウキ(Win)

第三話

西行妖&ユウコ→ヨウム「FS①」→ヨウム&ユウコ→ヨウム「FS

②」→レイム vs 西行

妖説教タイム、Win)→世界破壊→各キャラ→次の世界

※基本2話形式なので、一話のレイム vs ヨウム①〜②の辺りを削り、後の白玉

楼のシーンでヨウム、ヨウキ、ユウコが登場させ、異変について

ける2話構成

こなすま。

二話構成 ver

第一話

世界到着→白玉楼(ヨウキ)→白玉楼(ヨウム&ユウコ)→異

変→紫→サナエ

vs 藍→レイム vs 紫→ヨウム vs ヨウキ

第二話

第三話の流れと同じ

かいてたら流れが変わったので、↑は目安程度で

レイム、アキユウ、サナエが光琳堂の扉を開け外に出ると、レイムの姿はい

つのまにか藍染めの庭師姿になっていた。レイムは「タサイ、ふざけんな。責任者でてこい！」と憤慨するが、周りの景色を見て怒気を抜かれる。

そこには、自然の美しさとは違う人の手が加えられたが故の調和のとれた空間が広がっていた。

アキユウが「日本庭園ですね、つまりレイムさんは庭師という事ですか」とスーパーオタク語りタイムを始め、サナエは真剣に、レイムは聞き流しつつ庭園を散策していく。

アキユウの語りが、続く中レイムとサナエが不穏な気配を感じ取り、レイムはアキユウを抱えその場から飛び退く。

先ほどレイムがいた場所には、少女が破壊の痕跡と共に立っていた。

少女の出で立ちには、頭に大きな黒いリボン、左手に二の腕を覆う大きな白い玉石をあしらった巨大手甲というアンバランスなもの。さらに少女の周りを浮遊するオタマシヤクシを彷彿とさせる人間大の異形。

リボンの少女は舌打ち一つとともにレイム達に敵意の視線を投げかける。

【OP】

リボンの少女は

「不意打ち一つで始末できると思いましたが、やはり横着はいけませんね」

と独りごち、懐から黒地に桜の紋様が刻印された手の平大のカードケースの様なものをとらだし、いつの間にか現れていたベルトバックルに差し込み

「変身」

とつぶやく。

咬いた直後に少女の姿が三重にぶれ、銀に輝く装甲が追加された姿が現れる。

騎士姿となった少女は、先程差し込まれたケースからカードを一枚引き抜き、左手の大手甲をスライドさせカードを挿入、装填した。

すると、手甲から機械音声が放たれる。「Advent」。その一言を持って変化が起きたのは少女に寄り添っていた異形だ。

異形は一度その身を振るわせると、形が変化していく。

全身は太さを残したまま引き延ばされ、頭部は先端から二つ

に割れ、幾双もの牙が並びたつ顎が、胴体からは鈍い輝きを放つ重爪を携えた四肢が伸びる。

全ての変化の終了とともに現れたのは龍だ。あらゆる物語に人の恐怖の象徴として描かれてきた寓話の覇者は、少女に寄り添つようにとへろを巻きしレイム達をその眼光をもって威嚇する。

「サナエーアキユウ連れて光琳堂に戻ってー」

龍の顕現を待つてようやくレイムの声が響き渡る。サナエはレイムの指示に従いアキユウを抱えて光琳堂に撤退。

「逃がしませんー」

少女の声に呼応した様に龍がサナエを追うが、その前にレイムが立塞がる。

「そうはさせないわよー……変身ー」

レイムは変身即座にサイセンブッカーを抜き打ち龍を牽制。怯んだ龍は距離をとり、レイムに狙いを定める。

「ならば、あなたから始末するまでー」

少女は先ほど同じ手順でカードを装填。響く声は「Sword Vent」。少女の手には、四尺を超える長さを持つであるつ小太刀とその間合いを補つためであるつ小太刀が握られていた。

「コンパク・ヨウム……参るー」

「死神女学生の次は時代錯誤の侍女なんてどうかしてるわー」

レイムはサイセンブッカーによる銃撃で応戦するが、レイムと龍のコンビネーションにより、苦戦を強いられる。

「中々やますが、このままでいいですね」

「だったら……早速使わせてもらつたわよー！コマチー」

レイムはコマチにスペルライド。姿が変わり、「コマチの衣装と大鎌が握られる。

「なっ……姿が変わったー？」

「ひあて、斬って斬って斬りまへるわよー」

両手で大鎌を振り回し、「コマチの能力である」距離を操る程度の能力」を使い、不意を突き龍を撃破する。撃破された龍は、元のオタマジャクシの様な形にもどりその場に力なくうつく

する。その後、能力を巧みに使い時に鎌で時にサイセンブッカーで攻撃を編ませ攻勢にでている。

「そんな刀じゃ私の距離には届いてくれないでしょ侍女！

そのそろ終わりにしてあげるわー」

レイムは妖怪バスターで決着をつけようとして、一気に距離を離す。

「コンパクの斬撃に射程外など……ないー」

レイムの必殺の動きに合わせるようにヨウムは新たなカーブをインストール。

「Strike Vent」の機械音声が空間を走り、ヨウムは小太刀を投

擲、大太刀を両手で肩に担い構える。

「っ！ けど何をしようともう遅いわよー」

砲撃を行うに当たってレイムは回避を完全に棄て、照準に全てを置いていた。

故に投射物に対しては無防備の状態であった。そこに高速で銀閃が迫っていた。

銀の名は白楼剣。ヨウムの持っていた小太刀にして、曰く迷いを断つ剣。

不可避の一撃がレイムの太ももに深く突き刺さる。しかし、これに構わずレイムは引き金を引こうとしたが、指先が動かなかった。体は何故か自動的に片膝をつき、再照準の選択肢を取っていた。

レイムは白楼剣が刺さった際に、迷いが生じた。即座に引き金を引き確立でヨウムを撃ちぬくか、再照準により正確にヨウムを撃ちぬくか。この迷いが敵を仕留めるという最善の形で表出し、後者の選択肢を取らせた。

「斬撃するー」

「させませんー」

レイムの砲撃がワントンホ遅れた事により、ヨウムの斬撃が放たれる。しかし、その直前に鉄輪がヨウムに迫り斬撃が鈍し、レイムを完全に捉えきれなかった。鉄輪の主はフォームチェンジをしたサナエ。

「大丈夫ですか！レイムさん！」

「ちょっと、ヤバイかも……」

苦しうに呻くレイムを庇うように立塞がるサナエ。その後、ヨウムは撤退し、レイムは気を失ってしまう。

サナエがレイムを担いで光琳堂に戻ると、一人の奇妙な老人が茶を啜っていた。老人はヨウキと名乗り、レイムの傷の具合を見てくれる。

レイムを安静に寝かした所で、ヨウキはレイム達の正体を看破しこの世界の事などを教えてくれる。途中でレイムが起き上がり話に加わり、先程のヨウムの事を聞く。ヨウキからヨウムは「見えるものしか斬れない未熟者」と評価する。その後ヨウキは何かを察知したらしく光琳堂を去っていく。

レイムは先程の戦闘と、ヨウキの言葉を元に距離を厭わぬ斬撃について看破する。

時をおかずに、光琳堂をヨウムが襲撃する。先程のストライクバントを奇策を用いて破り見事レイムはヨウムを撃破することに成功。ストライクバントはヨウムの視界に入ったものを全てを斬撃する魔剣であり、故に距離に関わらずレイムを斬撃す

ることができた。しかし、ヨウムが視界に納めていなければどうということはない代物でもある。前回の戦いの時、不意を突いたサナエの攻撃で注意がそれレイムを完全に捉えきれなかった為に不完全な斬撃で終わってしまった。その事に気付いたレイムは光琳堂のカーテンを強奪し自分のマントとして装備し、ストライクイベントの直前にヨウムの眼前に大展開し奇襲をぶちかました。

自分たちを襲った理由をヨウムに尋ねるレイムだが、会話が噛み合っていないことにお互いが気づく。ヨウムはレイム達を最近頻繁に現れるようになった異形と勘違いして斬りかかっていた事に気づき、お詫びもかねて白玉楼に招く事にした。

白玉楼に上ると、ヨウムは最初にレイム達をココの主であるココのもとに連れていく。ココはレイム達を喜んで迎え入れる。その後、簡単な歓迎の宴の様なものが出た回響の一時を過ごす。

しかし、回響の最中ココが急に苦しみだし倒れ、みるみる内にその体を透かしていき最後には消えてしまった。

取り乱すヨウムと果然とするレイム達。そんな彼女たちの前にある人物が現れる。

レイム達の前に現れたのは紫であった。深遠を無数の眼球で支配し、世界を暴く妖怪はおもしろおかしくココの消失の原因を語る。

この世界を廻しているシステムが異変を起こしており西行妖が暴走している事を、ココが消えたのはその西行妖の機構の一部になっているからである事を、このままではこの世界はレイムはおろかその他の全てを巻き込む大崩壊を起こしてしまう事を一部始終語った紫は、舞台を用意すると言って境界に消えていく。

原因が西行妖にあると知ったレイム達は、白玉楼敷地内にある西行妖の元へ向かおうとするが、屋敷の外へ出たレイム達が見たものは壊れゆく世界の姿であった。大地は断き、空は罅割れ、罪の具現である澱が無数に舞って世界を食瀆していた。

その異変の姿に絶句していた時に、ヨウムが西行妖が見えないことに気づく。あれだけ巨大な桜ならば、敷地内からであればどこからでも見えるはずだと。

その疑問に答えたのは紫の式である藍であった。藍は紫が能力を使って世界を縦にひき合わせた事を説明する。西行妖に辿り着くには、自分を含め、後3名のBOSSと戦う必要がある事を告げた彼女は誰が相手になるのかを問う。サナエが前に出

て、何故こんな事をするのかを問うと、藍は紫の気まぐれだと答えるのみであった。サナエはレイム達に「ここは私にまかせて先に行ってくださいと死亡フラグまるだしで先に行かせた。」

「レイムさん、ここは私にまかせて先に行ってください」「サナエ……あなたこの状況でそれは……」

レイムは「まかせた」と言っただけに行き残されたのはサナエと藍の二人のみ。

「レイムさんに受けた恩をここで一つ返します……変身ー」「紫様の戯れも、いい加減にして欲しいですね。式である私は従うしかないので、ね」

しばらく走っていたレイム達の前に紫の境界が現れる。レイム達は迷わず境界に突入し次のStageに行く。

境界を抜けた先にいたのは、紫であった。紫は相手にレイムを指名。レイムはその挑戦を受け取り、ヨウムを先に行かせる。「2つの世界を破壊した通りすがりの実力、私が試してあげるわ」

「随分とえらそうね、隙間女。後悔、させてあげるわ……変身ー！」

レイムは自分の能力を極限まで使い、紫を追いつめるも体が限界を迎えて紫に取り押さえられるが紫に上出来と評された彼女は、勝利を渡される。納得いかずに喚き散らすレイムだったが、時間がないことを知り西行妖のもとへと急ぐ。

一人、西行妖に向かって走るヨウムの周りに次第に桜の花びらが舞い始める。桜の満開がタイムリミットである事を考えるならば、それが近い事を示していた。そして、ヨウムは第二の境界を抜ける。

ヨウムが走り抜けた先にいたのは、ヨウキであった。ヨウムは驚くが、喜び駆け寄って行くが殺気に体を止める。ヨウムは何故と問いかけるが、ヨウキは「口先でワシっ。ヨウキの一人称がわからないので無難なものを使用が斬れるのか小娘。何故という言葉は吐く前に、斬りかかってこんなか馬鹿者があー」と一喝。真実とは斬撃の先に自ずと見えるものであるとヨウムに斬りかかる。ヨウムは、即座に変身。応戦する。

その戦いの中でヨウムは真実(設定資料参照)を知っていく。自分の存在の意味を知りながらもココを救いたいと願う彼女は辛くもヨウキに勝利する。

西行妖に辿り着いた二人は互いの満身創痍状態に苦笑する。ヨウムはレイムに自分の事を告白する。レイムは「で、あなたはごうしたいの……この世界を救いたいのかそれともあの亡霊

娘っ私にもつてっちでもいいわよ。この世界と心中してもいいわ」と言うが、ヨウムは首を横に振る。「両方です。この世界もココ様も両方救います」「ネ、ネ、じゃあ行くわね」とレイムは微笑みながら、「FSのカードをロープで装填。」

「ちゅっちゅっちゅっちゅわね」

「はっ！お願ひしますー！」

ヨウムはグリーターソードを思わせる姿になったレイムの手に握られる。レイムは、こちらの方がヨウムらしいと眩き、その剣を西行妖に突き立てる。

剣を介して、西行妖内部で邂逅するココとレイム。ココは転輪の失敗を嘆き、一人涙を流し世界の崩壊を受け入れようとしていた。ヨウムは、ココの涙をぬぐい、手をとり立たせる。自分がそばにいるからと。いつまでも、だから帰るまじゅうと説得。

ココを切り離された、西行妖は開花を停止。しかし、すべてに再起動し開花を続行させる。ココが抜けた部分に澱が浸食し、暴走が臨界へと向かう。

西行妖の意思がココの形を形成し、澱と融合した姿が表出、それをレイムはヨウムにFSでそれを消滅させる。それまでの暴走のエネルギーとレイムの能力を使い、レイムは世界を改造し、新しい世界を形作る。(設定資料参照)

その後、ココは亡霊ではなく普通の人として、西行妖は普通の桜として咲き誇るようになった。

異変後、西行妖の元で目覚めたココは長い夢から覚めた様な気分でも覚えてなかった。手には覚えのない何故か大切な感じがする黒のリボン。訳もなく悲しくなったココはそのリボンを抱きしめ嗚咽を漏らします。

その姿を遠くで眺めるレイムとヨウム。レイムは声をかけなくっていいのかと問いかけるが、ヨウムは首を横に振る。

「ああやって泣いてくれるだけで私は幸せです。それで、もうすぐ私は消えてしまします。今、ココ様の前に出ていっても困惑させてしまっただけです」

「だったら、よ。私達と一緒にいたいってこの世界に縛られないで……ね」

レイムが横を向いたときには、既にヨウムの姿はなくなっていた。

「……そうよね。あなたはあの子を守ってるって、決めたものね」アキユウ達の声が遠くから聞こえ、レイムはその場をあとにして

する。生涯忘れる事のない剣士の名を胸に刻み、次の世界へと向かう。

かなりのざっくりなので疑問点はメール下さい。大まかな流れなので描写関連は超適当仕様。採用されたらおしよさんが補完するだろう。されなかったら自力で完成させます。補足設定資料作成中。

レイム vs 紫、ヨウム vs ヨウキ、ココ&ヨウム、ラストの

シーンは8月中には完成させたい。メインですー……